

コースNo.73直正公像から赤松校区へ

起点
見所
コース概略

- 鍋島直正公像前
 武家屋敷の雰囲気を残す水ヶ江・赤松地区の歴史を求めて 約5キロ
- ①直正公像に挨拶してスタート
 - ②船着き場跡（石垣の説明版など）
 - ③民家の一角にフラワーデザイン発祥由来の碑
 - ④岸川家住宅：江戸期の手法をとり明治期に建築
 - ⑤水ヶ江茶屋：虚受楼跡推定地（近くには寄ることが出来ない）
 - ⑥古賀忠雄誕生地
 - ⑦慶雲院：龍造寺家兼のお茶屋を母、続いて父を亡くし建立された寺院
 - ⑧乾亨院：龍造寺家兼（剛忠）が菩提所として開所、官軍墓所
 - ⑨龍造寺隆信生誕地・中の館神社
 - ⑩光円寺：水ヶ江家の長臣伊予入道覚順の屋敷地、仙叔大和和尚を開山
 - ⑪赤松公民館
 - ⑫円蔵院：山口の瑠璃光寺を本寺とする。寺格を上げる直訴し事件が発生
 - ⑬赤松小学校前龍造寺鍋島家の家系図
 - ⑭やさしいお顔の碇観音
 - ⑮宝琳院龍造寺隆信が7歳から出家、圓月と称し、後還俗した
 - ⑯シャボン玉公園
 - ⑰彫刻の森
 - ⑱高輪築堤（日本の鉄道はこういう工夫が）
 - ⑲清恵庵（市村清と奥様の名前から付けられた茶室）
 - ⑳佐賀城西側土塁石垣と門
 - ㉑ハートの木を見てからゴール



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬龍造寺隆信と鍋島直茂は義兄弟



14



15



15



16



17



18



19

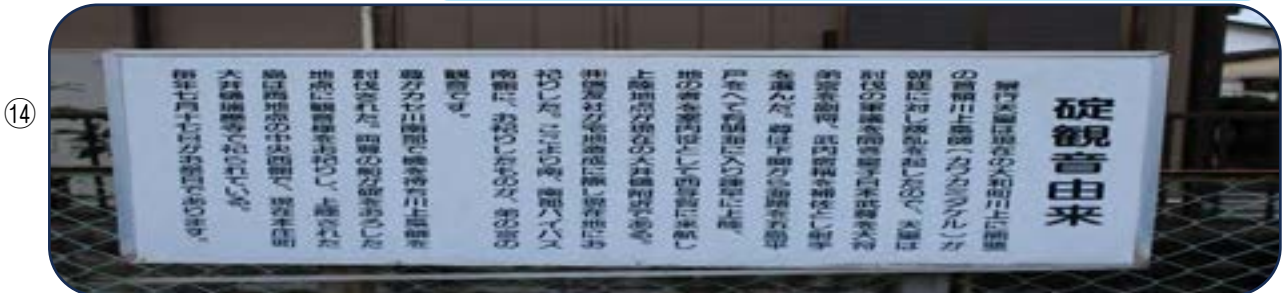


20



21

⑤直正公は体が強くなく、湿気が多い佐賀城付近から養生のために水ヶ江に療養のための茶屋を設けた。しかし茶屋の周りは家臣の居住地であり、気が安まらず、その後神野に新たな茶屋を設けた。これが今の神野公園である。取材時に茶屋のことを近所の方に尋ねたら、お茶屋さんなんてありませんよとの返事でした。



14

碓観音由来

修行場は現在の太和川上流橋
 の高瀬川上流部「方々丸」ガ
 朝越に封じ城址を築き、美濃は
 利根の軍師・阿蘇重元・末武・大持
 重光・阿蘇、武内宿禰・佐々木
 重隆など、時長下脚方・海軍を五郎
 戸へ来て、朝越に入らざるに、
 地の善悪内証として、内証西に東航し
 上流部が錦の大津波附寄るを
 津波が村を地獄に陥し、現存地に
 投じた。この正の南門八バス
 南門に、お経じがら、弟の墓の
 観音です。
 藤がカヤ川南門で、藤がカヤ川上流部を
 討伐された。西側の野分、東側の
 地に、観音様をお祀りし、上流された
 藤がカヤ川の中流部、現在、正門
 大井橋跡等、お祀りされています。
 昭和十七年七月七日のお祭りです。